

(別紙2 - 1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24 年 10 月 16 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401269		
法人名	有限会社 薫風		
事業所名	グループホーム 陽だまりの家		
所在地	南島原市有家町里坊 109		
自己評価作成日	平成 24 年 9 月 3 日	評価結果市町受理日	平成 24 年 10 月 24 日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階
訪問調査日	平成 24 年 10 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>関連施設を含め地域に根づいた地域医療ケアに取り組んでいる。</p> <p>外出の支援としては、季節感を感じられる様に、お花見、つつじ見学、足湯、紅葉見学等年間行事に取り入れて、家族とともに出かけられる機会をつくり又、五感で感じられるような環境を支援している。</p> <p>近隣の中学校と高校の生徒の福祉体験を受入れている。</p> <p>認知症ケアにおいては、言動の裏側に隠されたメッセージや背景を常に考えながら、「なぜなのか、何がしたいのか」と掘り下げて考えその中で、利用者主体・個人の尊厳・介護予防のサービスを提供している。</p> <p>ひとつひとつのケアに対して、知識や証拠に基づき、真心を込めた介護サービスを提供している。</p> <p>気づきや考える力をつけることができるように、頭のトレーニングを行い、考えながら行動している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

自然環境豊かな場所に位置する当該ホームは、ホーム周辺にたくさんの季節の花が植えられ、ホームの大きな窓からは雲仙普賢岳が一望できる。田園地帯でもあり、作物の成長からも季節を自然と感ずることができる。ホーム内はスペースが広く、カウンターキッチンでは日常的に職員と利用者が会話を交わし、家庭的な雰囲気を感じ取れる。また、母体は医療機関であることから、協力体制も整っており利用者・家族の安心にも繋がっている。開設当初に比べ、重度化が進んでいるが、利用者一人ひとりに合わせた個別ケアに力を入れ、今後も本人のニーズに合わせた関わりを大事にしたいとしている。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>・ケア会議を開催し、理念を共有を図りながら、意見交換や議論の重要性を大切にしている。また、人材育成の場とも捉え、実践に繋げている。</p>	<p>職員会議の中で、事例をもとに、理念の意味を掘り下げながら話し合いが行われている。また、介護目標を毎月定めており、各ユニットで具体的に反省・評価をしているほか、理念は、玄関や事務所に掲示しており、振り返りが行われている。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>・入居者やその家族の方々及び職員・業者を含め、お互いの関係性を深めている。町内清掃や消防訓練など声掛けしたり、一緒に行ったりと日常的に交流を図っている。</p>	<p>ホームは、田畑に囲まれており、日頃から散歩途中に話をしたり、農作業の合間に一緒にお茶を飲むこともある。法人内のお祭りでは、地域の方たちが多く参加され交流があった。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>・入居者家族等の面会時や電話での相談・報告を通じその会話の中で、知識や経験から、例を挙げ支援の方法や考え方を提案している。</p>		
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・会議出席者の構成をはじめ、より多くの意見や改善点など出しやすい環境をつくることに重点を置いた取組みを行っている。</p>	<p>昨年度は参加者の日程調整が難しく、年に5回の開催に留まったが今年度は定期的に2ヶ月に一度の開催を予定している。メンバーである民生委員からの地域情報が豊富であり、地域包括支援センターとの情報交換の場ともなっている。</p>	<p>前回の目標達成に向けた取組み内容が達成できておらず、今後も参加メンバーの充実と、会議内容にあらかじめ議題を設けるなどして、さらに有意義なものになることを期待したい。</p>
5	4	<p>市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>・各課の担当者に、申請、調査時などで不明な点がある場合訪ねたり意見交換を行いながら、より良い協力関係が築けるよう取り組んでいる。</p>	<p>わからないこと、相談事があればすぐに電話等で相談するようにしており、最近では、避難訓練に消防署参加を要請するためにお願いした事例もある。行政とは日々、情報交換も行われている。</p>	

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>・身体拘束委員会を中心として、勉強会を実施し、身体拘束にあたる具体的な行為等を正しく理解している。また、入居者の心に寄り添い、拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>ホーム内に、身体拘束廃止委員会を設けており、年間を通じて定期的に勉強会を開いている。やむをえない事例を含めて拘束等は一切しないと定めており、それに向けて職員間の見守りを重視している。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・身体拘束委員会を中心に、高齢者虐待について学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。また、入居者の生活歴を把握しサービスを提供している。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>・認知症介護実践者研修等に参加し理解を深めている。また、権利擁護を利用されている方もいる為、常日頃より、市の担当者、社協の方などとの交流もあり支援できている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・入居前に出来るだけ、本人と家族が一緒に見物に来てもらい、不安や疑問などある場合十分説明を行ない納得をされたうえで、契約を交わしている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・毎月陽だまり新聞を刊行し、お知らせや行事等を記載し、情報を発信している。また、面会時に入居者の普段のクラスぶりを報告するだけでなく、家族等の意見や要望等を頂戴している。</p>	<p>玄関には意見箱を設置し、常に意見を聞く姿勢がある。面会頻度は家族により様々であるが、面会時に意見を聞きだす会話の工夫をし、それぞれの要望があがれば、早急に実施に繋げている。</p>	

11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は、職員が心を開いて話しやすい関係性を普段より築いておりその意見を反映できるように、代表者等へのパイプ役として取り組んでいる。 	<p>日頃から職員間での会話の中で情報交換が行われているが、職員アンケートも実施されており、意見が出にくいものも、管理者等へ届く仕組みがある。また、申し送りノートの記入が徹底しており、各ユニット間での共有もはかられている。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスとして、職員の資質向上のための目標を設定し取り組んでいる。また、個別面談を実施するなど、意識改革及び環境面での整備を図っている。 		
13		<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関連施設の委員会の勉強会への参加。その他に、介護士会、実践者研修、救命救急の研修を受けスキルアップできるように、勤務の調整などしている。 		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護事業所連絡協議会に加盟して同業者との交流及びネットワークづくり、また勉強会を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。 		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が困っていること、不安に充分耳を傾け、要望に適切に答えながら、心配なくサービスを利用できる関係づくりに努めている。 		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族が不安なく利用者を預けられるように、聞き取りを充分行い、また要望や不安を話しやすい雰囲気作りに努め、信頼関係が出来るように努めている。 		

17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・本院や家族の希望・要望を傾聴し確認しながら、対応している。医療面では、主治医に相談して、指示を受け、ケアを提供している。</p>		
18	<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>・本人が出来る事出来ないことを把握したうえで、生活リハビリを兼ね簡単な仕事(洗濯物たたみ)などを一緒に行っている。</p>		
19	<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>・行事ごとに電話や新聞で家族へ参加を呼びかけたり新聞、面会時などに、施設での様子を伝えたりしている。</p>		
20	<p>8 馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうち、支援に努めている</p>	<p>・行きつけの美容院がある方は、家族とも相談しながら、利用者の希望に沿うように支援し、美容院への送迎を行っているが、高齢化と下肢の筋力低下もあり訪問美容を利用する方も増えてきた。(訪問美容の方が低価格で出来る為、希望される家族が多い)</p>	<p>入居前の環境を大切にしており、家族・職員支援で墓まいりに行ったり、以前利用者がよく買い物していた店へ外出することもある。ホームへは近所の方や知人の面会もあり、途切れのない支援が窺える。</p>	
21	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>・職員が間に入ることでお互いに関わり合いながら、話をしたり、歌を歌ったり、相手の事を気遣ったりと毎日の生活の中で普通に行われている。</p>		
22	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>・ドライブなどで外出した場所で会ったときには、お互いに声を掛け合ったりしている。入院などで退所された方については、お見舞いに行ったり、関係を断ち切らないように努めている。</p>		

その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>・本人や家族から希望や意向は聞き取りを行い、ケアに活かしているが、困難な場合は生活歴を把握したうえで、個人の表情など見ながら、利用者主体に考えている。</p> <p>入所時におおまかな生活歴などが記入されるが、入所後に利用者との関係を大切にしながら少しずつ、ニーズや今までの暮らしを把握していくように努めている。本人からの聴取が困難な場合は、家族からの情報も取り入れている。</p>
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>・入所時に充分聞き取りを行うようにしているが、面会時などに新たに知り得るときもあり、アセスメントシートに追加記入しながら生活歴などの把握に努めている。</p>
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>・職員は、申し送り等で一人ひとりの一日の過ごし方心身の状態、有する力等について充分把握している。状態に変化が見られるときは、報告し経過を見ながらケアを行っている。</p>
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>・本人、家族の意向に耳を傾けながら、利用者がよりよく暮らせるように何が必要か、会議で意見を出し合いながら介護計画を作成し、個人個人の生活の質の向上に繋がるように努めている。</p> <p>職員一人が数名の利用者を担当する受け持ち制であるが、職員全員で話し合いが行われ、プランの見直し、評価が行われている。本人のやりがいや役割を大切にしており、日々の介護記録にはプランのサービス実施が細かく残されている。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>・個別のカルテに日々の生活記録を記入し、申し送りなどで情報を共有し、意見を出し合いながら、良いケアの提供、介護計画の見直しに活かしている。</p>

28	<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>・関連施設でのリハビリテーション家族の宿泊、個別の家庭訪問(希望により入居者同行)買い物依頼など、満足して頂けるように柔軟に対応している。</p>		
29	<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>・福祉体験学習等を受け入れて、協力しながら支援している。地域が主催する物は、積極的に参加できるように支援している。</p>		
30	11 <p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・本人及び家族等の希望を大切に、主治医と相談しながら、適切な地域医療が受けられるように支援している。</p>	<p>利用前と基本的にかかりつけ医の変更はないが、状態によっては専門医の受診を支援している。医療機関と密に連携をとりながら、状態変換時には家族への連絡が行われ、家族の安心が得られている。</p>	
31	<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>・当ホームでは、医療連携体制を整えている。またすぐ近くにはかかりつけ病院があり医療機関との連携を密にしたケアを行っている。</p>		
32	<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>・入居者が入院した場合は、病院に足を運び、スタッフと情報交換を行っている。また、退院できる状態になった場合は、主治医と相談しながら、利用者が再び安心して過ごせるように病院関係者と連携を図っている。</p>		

33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>・重度化や終末期のケアについては主治医が家族に対して、当事業所において出来る事、出来ない事等を説明し、同意を得て実施している。医療機関との連携を密にして方針を共有しながら、チームケアを提供している。</p>	<p>近年、ホームでの看取りの経験はないが、ニーズがあれば可能な限り実施を検討していく方針である。ホームでの医療行為を実施することは困難であるが、点滴治療や膀胱留置カテーテル、経管栄養などは可能である。また、心のケアも大切にしたいとしている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>・職員は関連施設と合同で勉強会を行い、知識と技術の向上に努めている。また、医療機関と連携をとり、迅速に対応出来る体制を取っている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>・消防、避難訓練の時は、地域の自治会や消防団にも声を掛け、協力を依頼している。水、食材、ラジオ電灯、チャートなどはすぐ持ち出せるように準備している。</p>	<p>年に2回、消防署立会いの下、防災訓練を実施している。広い駐車場では実際に消火器の使い方も訓練された。最近では、大雨のため川が増水した事例があり、行政に早急に連絡したことがある。今後も安全対策を検討したいとしている。</p>	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>・家族関係や生活歴などを把握して職員全員が情報を共有しながら、信頼関係の構築に努めている。個人の人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている</p>	<p>言葉かけに特に注意しており、無理強いせず、本人が意思決定できるような工夫をしている。その人に合わせて名前の呼び方も考え、個別の対応がある。また、排泄介助時は必ずドアを閉める、バスタオルをかける、距離を置く（排泄時に）など徹底している。</p>	
37		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>・入居者がその人らしい生活を送るために何が必要かを常に考えながら、こちらからの誘導ではなく、自己決定できるように働きかけている</p>		

38	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・個人個人がその人らしく生活出来るように、希望に添った支援を行っている。また、常日頃より、個人の考え方など理解するように努め、情報を共有している。</p>		
39	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>・季節ごとに衣替えを行っている。企画行事やレクリエーションなど行うときは、その場に合った衣装を入居者に選んでもらったりしている。</p>		
40	<p>15 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・食事は入居者の好みや季節の野菜を取り入れ、盛り付け・彩りに工夫を凝らし、目でも楽しんでもらえるようにしている。また、職員が同じテーブルにつき楽しく頂いている。</p>	<p>利用者にその日食べたいものを聞き、メニューに取り入れるほか、季節に応じて旬の食材を豊富に取り入れている。利用者が調理中に味見をすることもあり、食器の片付けなども可能な方は利用者の日課となっている。</p>	
41	<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・入居者の健康状態を把握し、食事面からのサポートを行い、必要時には、関連施設の栄養士と相談したりしている。一人ひとり嚥下状態に合わせて食事形態を変えたり、自力摂取が出来ない方は、介助を行い適切にカロリー、水分が摂取できるように支援している。</p>		
42	<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>・毎食後口腔ケアを行っている。自立で出来ない方においては、介助にておこない、必要に応じて、舌ブラシなど使用している。必要時は、歯科受診している。</p>		

43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄の失敗によるダメージを減らす為、それぞれの排泄パターン、排泄記録を参考にし羞恥心に配慮しながら、ケアを行っている。 	<p>排泄記録でパターンを把握し、入居時にリハビリパンツ使用であった方が布パンツのみになられた方もいる。失禁はみられるが、なるべく日中はトイレでの排泄支援に取り組んでいる。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食にバナナをつけ、普段の献立にもヨーグルト、ゼリー、繊維の多い食品を取り入れている。また、適切な運動を行うことで、腸管運動を促しているが、便秘がひどいときには、かかりつけ医に相談している。 		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・季節感を取り入れ、菖蒲湯やゆず湯など行っているまた、入居者に汚染が見られたときは、速やかに対応し清潔にし心地よく生活出来るように支援している。 	<p>基本的に一日おきの入浴であるが、希望があれば毎日でも入浴可能である。本人拒否があった場合は、無理強いせず、次の日に再度声をかけたリ、清拭・陰部洗浄を行うなどして清潔の保持に努めている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気温や湿度の調整を行い安眠できる環境を整えている。また、昼夜逆転し、夜間眠れない方には、一日の生活のリズムを作り、安心して気持ちよく休めるように支援している。 		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人個人の服用薬についての、職員は理解している自分で服用できない方は、確薬を行い、錠剤をつぶしたり個人に合わせた服薬支援を行っている。一日毎にセットしている。 		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>・一人ひとりの趣味やその有する能力に応じて、食器洗い、洗濯物干したたみ、花の水やりなどやりがいを持ってされている。また、居室にてラジオやテレビを見られる方もおられる。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>・体調やその日の気分配慮しながら、散歩や、日光浴、花見に出かけたりして気分転換を図っている。家族も日程の都合がつかれる時は、参加されることがある。</p>	<p>以前に比べると重度化が進み、全員での外出が難しくなったが、年間計画を立て、天候やその日の体調に応じて外出を検討している。ホームでも外気浴や日光浴を行い、季節を感じてもらっている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>・金銭の預かりは行なっていないが必要時に、家族と相談のうえ、一時預かり・立替払いを行っている。かかった病院へ、家族が直接払われる場合もある。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>・いつでも電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している必要に応じて、ポストへ投函したり便せんを購入したりしている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・共有の空間部分については、不快感などを感させないように、毎日清掃し、換気をし芳香剤など置いたりして居心地よく過ごせる環境を作っている。また季節の花々を飾ったり、ホーム前の田畑で四季を感じる事が出来る。周囲も自然が多く、平成新山の眺めを楽しまれている。</p>	<p>ホーム内はキッチンも含めて広く、車椅子等でもスムーズに移動が可能である。リビングのテーブルには季節の花が飾られており、大きな窓からも周辺の田畑や草花を見ることができる。明るい自然採光が射し込み、居心地が良い。また、和室スペースもあり、ゆったりと過ごすこともできる。</p>	

53	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>・ホールでTVを見たり、会話を楽しんだり、思い思いに過ごされている。また、和室で足を伸ばされたり、自分の家庭のようにゆっくりくつろがれている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・本人や家族と相談し、今まで使用されていた馴染みの物を持ってきてもらったが、下肢筋力が弱ってきたりしてレベル低下が生じ、転倒の危険性が出てきたときは、居室内の障害になる物を減らさなければならぬときがある。</p>	<p>全ての居室が和室であるが、必要に応じてベッド使用も可能である。日当たりの良い部屋には、馴染みの家具や思い出の品、位牌等が持ち込まれ、自然と落ち着ける空間にある。利用者個々の趣味も大事にされ、自室でテレビを見たりラジオを聴いたりする姿がある。</p>
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>・トイレ、洗面所は分かりやすい場所にある。床は完全バリアフリーで夜間は、廊下に照明がある為安全に移動できる。</p>	

アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	<p>1, ほぼ全ての利用者の</p> <p>2, 利用者の2/3くらいの</p> <p>3, 利用者の1/3くらいの</p> <p>4, ほとんど掴んでいない</p>
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	<p>1, 毎日ある</p> <p>2, 数日に1回程度ある</p> <p>3, たまにある</p> <p>4, ほとんどない</p>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<p>1, ほぼ全ての利用者が</p> <p>2, 利用者の2/3くらいが</p> <p>3, 利用者の1/3くらいが</p> <p>4, ほとんどいない</p>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<p>1, ほぼ全ての利用者が</p> <p>2, 利用者の2/3くらいが</p> <p>3, 利用者の1/3くらいが</p> <p>4, ほとんどいない</p>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<p>1, ほぼ全ての利用者が</p> <p>2, 利用者の2/3くらいが</p> <p>3, 利用者の1/3くらいが</p> <p>4, ほとんどいない</p>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30,31)	<p>1, ほぼ全ての利用者が</p> <p>2, 利用者の2/3くらいが</p> <p>3, 利用者の1/3くらいが</p> <p>4, ほとんどいない</p>

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・ケア会議を開催し、理念を共有を図りながら、意見交換や議論の重要性を大切にしている。また、人材育成の場とも捉え、実践に繋げている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・入居者やその家族の方々及び職員・業者を含め、お互いの関係性を深めている。町内清掃や消防訓練など声掛けしたり、一緒に行ったりと日常的に交流を図っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・入居者家族等の面会時や電話での相談・報告を通じその会話の中で、知識や経験から、例を挙げ支援の方法や考え方を提案している。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議出席者の構成をはじめ、より多くの意見や改善点など出しやすい環境をつくることに重点を置いた取組みを行っている。		
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・各課の担当者、申請、調査時などで不明な点がある場合訪ねたり意見交換を行いながら、より良い協力関係が築けるよう取り組んでいる。		

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>・身体拘束委員会を中心として、勉強会を実施し、身体拘束にあたる具体的な行為等を正しく理解している。また、入居者の心に寄り添い、拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・身体拘束委員会を中心に、高齢者虐待について学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。また、入居者の生活歴を把握しサービスを提供している。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>・認知症介護実践者研修等に参加し理解を深めている。また、権利擁護を利用されている方もいる為、常日頃より、市の担当者、社協の方などとの交流もあり支援できている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・入居前に出来るだけ、本人と家族と一緒に見物に来てもらい、不安や疑問などある場合十分説明を行ない納得をされたうえで、契約を交わしている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・毎月陽だまり新聞を刊行し、お知らせや行事等を記載し、情報を発信している。また、面会時に入居者の普段のクラスぶりを報告するだけでなく、家族等の意見や要望等を頂戴している。</p>		

11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・管理者は、職員が心を開いて話しやすい関係性を普段より築いておりその意見を反映できるように、代表者等へのパイプ役として取り組んでいる。</p>		
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>・キャリアパスとして、職員の資質向上のための目標を設定し取り組んでいる。また、個別面談を実施するなど、意識改革及び環境面での整備を図っている。</p>		
13		<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・関連施設の委員会の勉強会への参加。その他に、介護士会、実践者研修、救命救急の研修を受けスキルアップできるように、勤務の調整などしている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>・介護事業所連絡協議会に加盟して同業者との交流及びネットワークづくり、また勉強会を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>・本人が困っていること、不安に充分耳を傾け、要望に適切に答えながら、心配なくサービスを利用できる関係づくりに努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>・家族が不安なく利用者を預けられるように、聞き取りを充分行い、また要望や不安を話しやすい雰囲気作りに努め、信頼関係が出来るように努めている。</p>		

17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・本院や家族の希望・要望を傾聴し確認しながら対応している。医療面では、主治医に相談して、指示を受け、ケアを提供している。</p>		
18	<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>・本人が出来る事出来ないことを把握したうえで、生活リハビリを兼ね簡単な仕事(洗濯物たたみ)などを一緒に行っている。</p>		
19	<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>・行事ごとに電話や新聞で家族へ参加を呼びかけたり新聞、面会時などに、施設での様子を伝えたりしている。</p>		
20	8 <p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうち、支援に努めている</p>	<p>・行きつけの美容院がある方は、家族とも相談しながら、利用者の希望に沿うように支援しているが、高齢化と下肢の筋力低下もあり訪問美容を利用する方も増えてきた。</p>		
21	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>・職員が間に入ることでお互いに関わり合いながら、話をしたり、歌を歌ったり、相手の事を気遣ったりと毎日の生活の中で普通に行われている。</p>		
22	<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>・ドライブなどで外出した場所で会ったときには、お互いに声を掛け合ったりしている。入院などで退所された方については、お見舞いに行ったり、関係を断ち切らないように努めている。</p>		

その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>・本人や家族から希望や意向は聞き取りを行い、ケアに活かしているが、困難な場合は生活歴を把握したうえで、個人の表情など見ながら、利用者主体に考えている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>・入所時に充分聞き取りを行うようにしているが、面会時などに新たに知り得るときもあり、アセスメントシートに追加記入しながら生活歴などの把握に努めている。</p>	
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>・職員は、申し送り等で一人ひとりの一日の過ごし方心身の状態、有する力等について充分把握している。状態に変化が見られるときは、報告し経過を見ながらケアを行っている。</p>	
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>・本人、家族の意向に耳を傾けながら、利用者がよりよく暮らせるように何が必要か、会議で意見を出し合いながら介護計画を作成し、個人個人の生活の質の向上に繋がるように努めている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>・個別のカルテに日々の生活記録を記入し、申し送りなどで情報を共有し、意見を出し合いながら、良いケアの提供、介護計画の見直しに活かしている。</p>	

28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>・関連施設でのリハビリテーション家族の宿泊、個別の家庭訪問(希望により入居者同行)買い物依頼など、満足して頂けるように柔軟に対応している。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>・福祉体験学習等を受け入れ、協力しながら支援している。地域が主催する物は、積極的に参加できるように支援している。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・本人及び家族等の希望を大切にして、主治医と相談しながら、適切な地域医療が受けられるように支援している。</p>		
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>・当ホームでは、医療連携体制を整えている。またすぐ近くにはかかりつけ医院があり医療機関との連携を密にしたケアを行っている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>・入居者が入院した場合は、病院に足を運び、スタッフと情報交換を行っている。また、退院できる状態になった場合は、主治医と相談しながら、利用者が再び安心して過ごせるように病院関係者と連携を図っている。</p>		

33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>・重度化や終末期のケアについては主治医が家族に対して、当事業所において出来る事、出来ない事等を説明し、同意を得て実施している。医療機関との連携を密にして方針を共有しながら、チームケアを提供している。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>・職員は関連施設と合同で勉強会を行い、知識と技術の向上に努めている。また、医療機関と連携をとり、迅速に対応出来る体制を取っている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>・消防、避難訓練の時は、地域の自治会や消防団にも声を掛け、協力を依頼している。水、食材、ラジオ電灯、チャートなどはすぐ持ち出せるように準備している。</p>		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>・家族関係や生活歴などを把握して職員全員が情報を共有しながら、信頼関係の構築に努めている。個人の人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている</p>		
37		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>・入居者がその人らしい生活を送るために何が必要かを常に考えながら、こちらからの誘導ではなく、自己決定できるように働きかけている</p>		

38	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・個人個人がその人らしく生活出来るように、希望に添った支援を行っている。また、常日頃より、個人の考え方など理解するように努め、情報を共有している。</p>		
39	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>・季節ごとに衣替えを行っている。企画行事やレクリエーションなど行うときは、その場に応じた衣装を入居者に選んでもらったりしている</p>		
40	<p>15 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・食事は入居者の好みや季節の野菜を取り入れ、盛り付け・彩りに工夫を凝らし、目でも楽しんでもらえるようにしている。また、職員が同じテーブルにつき楽しく頂いている。</p>		
41	<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・入居者の健康状態を把握し、食事面からのサポートを行い、必要時には、関連施設の栄養士と相談したりしている。一人ひとり嚥下状態に合わせ食事形態を変えたり、自力摂取が出来ない方は、介助を行い適切にカロリー、水分が摂取できるように支援している。</p>		
42	<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>・毎食後口腔ケアを行っている。自立で出来ない方においては、介助にておこない、必要に応じて、舌ブラシなど使用している。必要時は、歯科受診している。</p>		

43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>・排泄の失敗によるダメージを減らす為、それぞれの排泄パターン、排泄記録を参考にし羞恥心に配慮しながら、ケアを行っている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>・朝食にバナナをつけ、普通の献立にもヨーグルト、ゼリー、繊維の多い食品を取り入れている。また、適切な運動を行うことで、腸管運動を促しているが、便秘がひどいときには、かかりつけ医に相談している。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>・季節感を取り入れ、菖蒲湯やゆず湯など行っているまた、入居者に汚染が見られたときは、速やかに対応し清潔にし心地よく生活出来るように支援している。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>・気温や湿度の調整を行い安眠できる環境を整えている。また、昼夜逆転し、夜間眠れない方には、一日の生活のリズムを作り、安心して気持ちよく休めるように支援している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>・個人個人の服用薬についての、職員は理解している自分で服用できない方は、確薬を行い、錠剤をつぶしたり個人に合わせた服薬支援を行っている。一日毎にセットしている。</p>		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>・一人ひとりの趣味やその有する能力に応じて、食器洗い、洗濯物干したたみ、花の水やりなどやりがいを持ってされている</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>・体調やその日の気分に配慮しながら、散歩や、日光浴、花見に出かけたりして気分転換を図っている。家族も日程の都合がつかれる時は、参加されることがある。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>・金銭の預かりは行っていないが必要時に、家族と相談のうえ、一時預かり・立替払いを行っている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>・いつでも電話をしたり、手紙のやりとりが出来るように支援している必要に応じて、ポストへ投函したり便せんを購入したりしている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・共有の空間部分については、不快感などを感じさせないように、毎日清掃し、換気をし芳香剤など置いたりして居心地よく過ごせる環境を作っている。また季節の花々を飾ったり、ホーム前の田畑で四季を感じる事が出来る。周囲も自然が多く、平成新山が一望できホールからの眺めを楽しめている。</p>		

53	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>・ホールでTVを見たり、会話を楽しまれたり、思い思いに過ごされている。また、和室で足を伸ばされたり、自分の家庭のようにゆっくりくつろがれている。</p>			
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・本人や家族と相談し、今まで使用されていた馴染みの物を持ってきてもらったりしているが、下肢筋力が弱ってきたりしてレベル低下が生じ、転倒の危険性が出てきたときは、居室内の障害になる物を減らさなければなりません。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>・トイレ、洗面所は分かりやすい場所にある。床は完全バリアフリーで夜間は、廊下に照明がある為安全に移動できる。</p>		
アウトカム項目					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の		
			2, 利用者の2/3くらいの		
			3, 利用者の1/3くらいの		
			4, ほとんど掴んでいない		
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある		
			2, 数日に1回程度ある		
			3, たまにある		
			4, ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が		
			2, 利用者の2/3くらいが		
			3, 利用者の1/3くらいが		
			4, ほとんどいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が		
			2, 利用者の2/3くらいが		
			3, 利用者の1/3くらいが		
			4, ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が		
			2, 利用者の2/3くらいが		
			3, 利用者の1/3くらいが		
			4, ほとんどいない		

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・ケア会議を開催し、理念を共有を図りながら、意見交換や議論の重要性を大切にしている。また、人材育成の場とも捉え、実践に繋がっている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・入居者やその家族の方々及び職員・業者を含め、お互いの関係性を深めている。町内清掃や消防訓練など声掛けしたり、一緒に行ったりと日常的に交流を図っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・入居者家族等の面会時や電話での相談・報告を通じその会話の中で、知識や経験から、例を挙げ支援の方法や考え方を提案している。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議出席者の構成をはじめ、より多くの意見や改善点など出しやすい環境をつくることに重点を置いた取組みを行っている。		
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・各課の担当者へ、申請、調査時などで不明な点がある場合訪ねたり意見交換を行いながら、より良い協力関係が築けるよう取り組んでいる。		

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>・身体拘束委員会を中心として、勉強会を実施し、身体拘束にあたる具体的な行為等を正しく理解している。また、入居者の心に寄り添い、拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・身体拘束委員会を中心に、高齢者虐待について学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。また、入居者の生活歴を把握しサービスを提供している。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>・認知症介護実践者研修等に参加し理解を深めている。また、権利擁護を利用されている方もいる為、平日頃より、市の担当者、社協の方などとの交流もあり支援できている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・入居前に出来るだけ、本人と家族と一緒に見物に来てもらい、不安や疑問などある場合十分説明を行ない納得をされたうえで、契約を交わしている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・毎月陽だまり新聞を刊行し、お知らせや行事等を記載し、情報を発信している。また、面会時に入居者の普段のクラスぶりを報告するだけでなく、家族等の意見や要望等を頂戴している。</p>		

11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・管理者は、職員が心を開いて話しやすい関係性を普段より築いておりその意見を反映できるように、代表者等へのパイプ役として取り組んでいる。</p>		
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>・キャリアパスとして、職員の資質向上のための目標を設定し取り組んでいる。また、個別面談を実施するなど、意識改革及び環境面での整備を図っている。</p>		
13		<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・関連施設の委員会の勉強会への参加。その他に、介護士会、実践者研修、救命救急の研修を受けスキルアップできるように、勤務の調整などしている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>・介護事業所連絡協議会に加盟して同業者との交流及びネットワークづくり、また勉強会を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>・本人が困っていること、不安に充分耳を傾け、要望に適切に答えながら、心配なくサービスを利用できる関係づくりに努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>・家族が不安なく利用者を預けられるように、聞き取りを充分行い、また要望や不安を話しやすい雰囲気作りに努め、信頼関係が出来るように努めている。</p>		

17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・本院や家族の希望・要望を傾聴し確認しながら、対応している。医療面では、主治医に相談して、指示を受け、ケアを提供している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>・本人が出来る事出来ないことを把握したうえで、生活リハビリを兼ね簡単な仕事(洗濯物たたみ)などを一緒に行っている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>・行事ごとに電話や新聞で家族へ参加を呼びかけたり新聞、面会時などに、施設での様子を伝えたりしている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>・行きつけの美容院がある方は、家族とも相談しながら、利用者の希望に沿うように支援しているが、高齢化と下肢の筋力低下もあり訪問美容を利用する方も増えてきた。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>・職員が間に入ることでお互いに関わり合いながら、話をしたり、歌を歌ったり、相手の事を気遣ったりと毎日の生活の中で普通に行われている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>・ドライブなどで外出した場所で会ったときには、お互いに声を掛け合ったりしている。入院などで退所された方については、お見舞いに行ったり、関係を断ち切らないように努めている。</p>		

その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>・本人や家族から希望や意向は聞き取りを行い、ケアに活かしているが、困難な場合は生活歴を把握したうえで、個人の表情など見ながら、利用者主体に考えている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>・入所時に充分聞き取りを行うようにしているが、面会時などに新たに知り得るときもあり、アセスメントシートに追加記入しながら生活歴などの把握に努めている。</p>	
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>・職員は、申し送り等で一人ひとりの一日の過ごし方心身の状態、有する力等について充分把握している。状態に変化が見られるときは、報告し経過を見ながらケアを行っている。</p>	
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>・本人、家族の意向に耳を傾けながら、利用者がよりよく暮らせるように何が必要か、会議で意見を出し合いながら介護計画を作成し、個人個人の生活の質の向上に繋がるように努めている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>・個別のカルテに日々の生活記録を記入し、申し送りなどで情報を共有し、意見を出し合いながら、良いケアの提供、介護計画の見直しに活かしている。</p>	

28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>・関連施設でのリハビリテーション家族の宿泊、個別の家庭訪問(希望により入居者同行)買い物依頼など、満足して頂けるように柔軟に対応している。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>・福祉体験学習等を受け入れて、協力しながら支援している。地域が主催する物は、積極的に参加できるように支援している。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・本人及び家族等の希望を大切にして、主治医と相談しながら、適切な地域医療が受けられるように支援している。</p>		
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>・当ホームでは、医療連携体制を整えている。またすぐ近くにはかかりつけ医院があり医療機関との連携を密にしたケアを行っている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>・入居者が入院した場合は、病院に足を運び、スタッフと情報交換を行っている。また、退院できる状態になった場合は、主治医と相談しながら、利用者が再び安心して過ごせるように病院関係者と連携を図っている。</p>		

33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>・重度化や終末期のケアについては主治医が家族に対して、当事業所において出来る事、出来ない事等を説明し、同意を得て実施している。医療機関との連携を密にして方針を共有しながら、チームケアを提供している。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>・職員は関連施設と合同で勉強会を行い、知識と技術の向上に努めている。また、医療機関と連携をとり、迅速に対応出来る体制を取っている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>・消防、避難訓練の時は、地域の自治会や消防団にも声を掛け、協力を依頼している。水、食料、ラジオ電灯、チャートなどはすぐ持ち出せるように準備している。</p>		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>・家族関係や生活歴などを把握して職員全員が情報を共有しながら、信頼関係の構築に努めている。個人の人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている</p>		
37		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>・入居者がその人らしい生活を送るために何が必要かを常に考えながら、こちらからの誘導ではなく、自己決定できるように働きかけている</p>		

38	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・個人個人がその人らしく生活出来るように、希望に添った支援を行っている。また、常日頃より、個人の考え方など理解するように努め、情報を共有している。</p>		
39	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>・季節ごとに衣替えを行っている。企画行事やレクリエーションなど行うときは、その場に合った衣装を入居者に選んでもらったりしている</p>		
40	<p>15 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・食事は入居者の好みや季節の野菜を取り入れ、盛り付け・彩りに工夫を凝らし、目でも楽しんでもらえるようにしている。また、職員が同じテーブルにつき楽しく頂いている。</p>		
41	<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・入居者の健康状態を把握し、食事面からのサポートを行い、必要時には、関連施設の栄養士と相談したりしている。一人ひとり嚥下状態に合わせ食事形態を変えたり、自力摂取が出来ない方は、介助を行い適切にカロリー、水分が摂取できるように支援している。</p>		
42	<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>・毎食後口腔ケアを行っている。自立で出来ない方においては、介助にておこなない、必要に応じて、舌ブラシなど使用している。必要時は、歯科受診している。</p>		

43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>・排泄の失敗によるダメージを減らす為、それぞれの排泄パターン、排泄記録を参考にし羞恥心に配慮しながら、ケアを行っている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>・朝食にバナナをつけ、普段の献立にもヨーグルト、ゼリー、繊維の多い食品を取り入れている。また、適切な運動を行うことで、腸管運動を促しているが、便秘がひどいときには、かかりつけ医に相談している。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>・季節感を取り入れ、菖蒲湯やゆず湯など行っているまた、入居者に汚染が見られたときは、速やかに対応し清潔にし心地よく生活出来るように支援している。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>・気温や湿度の調整を行い安眠できる環境を整えている。また、昼夜逆転し、夜間眠れない方には、一日の生活のリズムを作り、安心して気持ちよく休めるように支援している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>・個人個人の服用薬についての、職員は理解している自分で服用できない方は、確薬を行い、錠剤をつぶしたり個人に合わせた服薬支援を行っている。一日毎にセットしている。</p>		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>・一人ひとりの趣味やその有する能力に応じて、食器洗い、洗濯物干したたみ、花の水やりなどやりがいを持ってされている</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>・体調やその日の気分に配慮しながら、散歩や、日光浴、花見に出かけたりして気分転換を図っている。家族も日程の都合がつかれる時は、参加されることがある。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>・金銭の預かりは行っていないが必要時に、家族と相談のうえ、一時預かり・立替払いを行っている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>・いつでも電話をしたり、手紙のやりとりが出来るように支援している必要に応じて、ポストへ投函したり便せんを購入したりしている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・共有の空間部分については、不快感などを感じさせないように、毎日清掃し、換気をし芳香剤など置いたりして居心地よく過ごせる環境を作っている。また季節の花々を飾ったり、ホーム前の田畑で四季を感じる事が出来る。周囲も自然が多く、平成新山が一望できホールからの眺めを楽しまれている。</p>		

53	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>・ホールでTVを見たり、会話を楽しめたり、思い思いに過ごされている。また、和室で足を伸ばされたり、自分の家庭のようにゆっくりくつろがれている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・本人や家族と相談し、今まで使用されていた馴染みの物を持ってきてもらったりしているが、下肢筋力が弱ってきたりしてレベル低下が生じ、転倒の危険性が出てきたときは、居室内の障害になる物を減らさなければなりません。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>・トイレ、洗面所は分かりやすい場所にある。床は完全バリアフリーで夜間は、廊下に照明がある為安全に移動できる。</p>	
アウトカム項目				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)			<p>1, ほぼ全ての利用者の</p> <p>2, 利用者の2/3くらいの</p> <p>3, 利用者の1/3くらいの</p> <p>4, ほとんど掴んでいない</p>
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)			<p>1, 毎日ある</p> <p>2, 数日に1回程度ある</p> <p>3, たまにある</p> <p>4, ほとんどない</p>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)			<p>1, ほぼ全ての利用者が</p> <p>2, 利用者の2/3くらいが</p> <p>3, 利用者の1/3くらいが</p> <p>4, ほとんどいない</p>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)			<p>1, ほぼ全ての利用者が</p> <p>2, 利用者の2/3くらいが</p> <p>3, 利用者の1/3くらいが</p> <p>4, ほとんどいない</p>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)			<p>1, ほぼ全ての利用者が</p> <p>2, 利用者の2/3くらいが</p> <p>3, 利用者の1/3くらいが</p> <p>4, ほとんどいない</p>

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない